

看護師がALS療養者に行う 一時的吸引法について

東京都立保健科学大学
教授 川村佐和子
講師 城生 弘美

一時的吸引法の目的

気道の分泌物を除去し、気道を確保することによって呼吸を楽にする。

* 気道とは:

鼻腔(口腔)・咽頭・喉頭・気管支・細気管支
を総称する

気管支周辺の形態学上の特徴と危険

気管支周辺の形態の特徴



予測される危険とは

- ・突然死
 - 迷走神経刺激による呼吸停止
 - 心停止
 - 大量出血による圧迫止血困難
 - 流出した血液除去困難
- ・感染
 - 痰量増強
 - 全身状態悪化
- ・その他
 - 気胸
 - 無気胸

看護師の行う一時的吸引法 1 (ALS療養者の身体看護アセスメント)

1. 自発的行動困難のための痰貯留
2. 予測される危険の回避
3. 異常の早期発見
4. 異常発生時の対応

看護師の行う一時的吸引法 2(手技)

一時的吸引法施行前

胸部の異常のアセスメント(聴診器を用いた身体看護アセスメント)
気管切開部の異常の観察

一時的吸引法施行中

痰貯留位置の確認(聴診器を用いた身体看護アセスメント)

痰の剥離、流出誘導(気管支に出るまで繰り返す)

看護援助方法: 胸ドレナージ・タッピング・スクイーピング・
バイブレーション・温湿法

場合によっては痰液剤の吸入

気管支に流出してきた痰の吸引

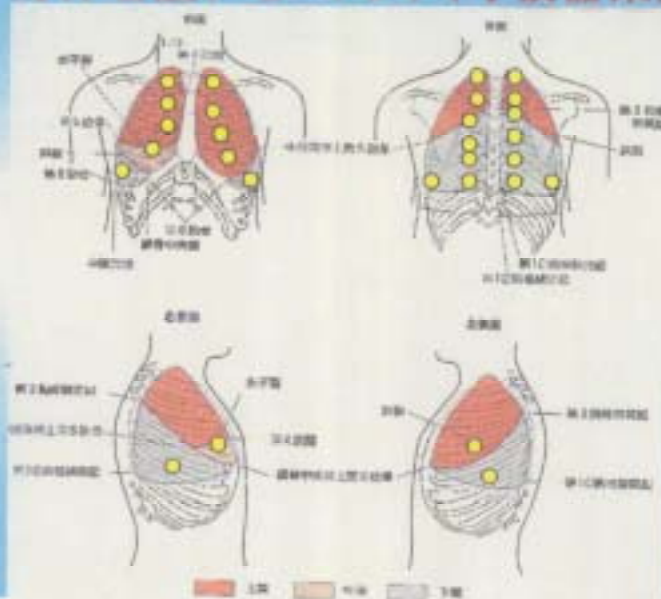
痰除去の確認(聴診器を用いた身体看護アセスメント)

一時的に痰量増
加のため、
吸引回数増える

一時的吸引法施行後

本人の確認を得る

聴診器を用いた 身体看護アセスメント(呼吸器系)



看護師の行う一時的吸引法 3 (器具等の操作と管理)

1. 吸引器および吸入器の作動点検
2. 吸引カテーテルなどの滅菌消毒
3. 消毒薬の準備

看護師の行う一時的吸引法 4 (合理的な去痰時間)

1. 夜間就寝前の痰除去を促す
2. 起床後の痰除去を促す

一時的吸引法に必要な能力

1. 一時的吸引に伴う**突然死(呼吸停止・心停止)・感染等**の危険の知識があり、危険を回避し、緊急時対応ができる。
2. 有効な去痰方法の選択、吸引施行前後での全身状態の変化を把握するために**聴診器を用いた呼吸器系をはじめ、身体看護アセスメント**ができる。
3. 効果的に吸引をするために**器具等の操作管理**ができる。